

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地														
ECCアーティスト美容専門学校	平成15年3月28日	中村 竜二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西一丁目8番5号 (電話) 06-6373-1447														
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地														
学校法人 山科学園	昭和58年11月22日	酒元 英二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西二丁目3番35号 (電話) 06-6372-5151														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士													
文化・教養	文化教養専門課程	アーティスト学科 ビューティアドバイザーコース	平成20年文部科学大臣 告示第153号	-													
学科の目的	本校は、学校教育法及び教育基本法に従い造形教育を基礎として専門技術と知識を教えるとともに、豊かな創造性と進取の気性、自律の精神に富んだ実社会に有用な人材を育成することを目的とする。																
認定年月日	平成26年3月31日																
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技											
	1980単位時間	1200時間	780時間	0時間	0時間	0時間											
2	昼間	単位時間															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数												
300人の内数	169人	0人	4人	10人	14人												
学期制度	■前期:4月1日から9月30日 ■後期:10月1日から3月31日		成績評価		■成績表 有 ■成績評価の基準・方法 授業出席率が75%以上であること。 総合評価点が50点以上であること。												
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月21日-8月31日 ■冬季:12月20日-1月9日 ■学年末:2月23日-4月12日		卒業・進級条件		卒業の要件) 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応・担任面談 ・保護者会		課外活動		■課外活動の種類 ハイキング、スポーツ大会、ハロウィンフェスティバル、文化祭、海外研修等 ■サークル活動: 有												
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 化粧品業界 チャンネル、クリスチャンディオール、資生堂、日本ロレアル等		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JMAメイクアップ技術検定 3級</td> <td>③</td> <td>56人</td> <td>56人</td> </tr> <tr> <td>JMAメイクアップ技術検定 2級</td> <td>③</td> <td>56人</td> <td>55人</td> </tr> <tr> <td>メイクアップシニアアドバイザー資格</td> <td>③</td> <td>56人</td> <td>55人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JMAメイクアップ技術検定 3級	③	56人	56人	JMAメイクアップ技術検定 2級	③	56人	55人	メイクアップシニアアドバイザー資格
資格・検定名	種	受験者数	合格者数														
JMAメイクアップ技術検定 3級	③	56人	56人														
JMAメイクアップ技術検定 2級	③	56人	55人														
メイクアップシニアアドバイザー資格	③	56人	55人														
■就職指導内容 ・業界での就職先とキャリア形成の手法 ・履歴書、面接指導 ・企業紹介と面接対策		■卒業生数: 56人		■就職希望者数: 56人		■就職率: 100%											
■就職希望者数: 56人		■就職率: 100%		■卒業生に占める就職者の割合: 100%		■その他なし											
(平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																	
中途退学の現状	■中途退学者 8名 平成29年4月1日時点において、在学者137名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者129名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 金銭面、進路変更、人間関係等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		■中途退学率 5.8%														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※特待生制度、学費減免優遇制度、ひとり暮らし支援制度等 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																
当該学科のホームページURL	URL:http://art.ecc.ac.jp/																

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係		
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 メイク・化粧品を中心とした美容分野の知識・技術を幅広く習得するため、メイク・化粧品業界を中心とした企業等と連携し、現場の意見・アイデアを導入し、卒業後、即戦力として活躍できるための体制を構築する。 ①教育課程編成委員会を設置し、これを年間2回開催することにより企業等との連携を強化するとともに意見・アイデアをカリキュラム反映に活用する。 ②協会・企業・サロン等に所属する非常勤講師を含めた会議を年間2回開催し、カリキュラムの確認、意見交換を実施することにより、実践的な授業展開を図るとともに学科としての意志統一を行う。 ③特定のカリキュラム設定においては、関連企業等と提携することにより、現場に即した授業展開を図る。		
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 教育課程編成委員会は、「教育課程編成委員会規定」に基づき、第2条で記載の通り、当該学科の専攻分野である美容/ビューティ/メイクを中心とした企業、団体等との連携を確保して、授業科目の開設その他教育課程の編成を適切かつ円滑に行う組織として学内に設置されたものである。学内で定例化しているカリキュラム編成会議・責任者会議を経て審議・討議された課題を中心に議題を設定し、これに基づき教育課程編成委員会で討議された結果は、再度、カリキュラム編成会議・責任者会議で具体策等を討議し緊急性/重要性を考慮の上、カリキュラム改善等の対応を実施する。		
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿		
平成30年9月30日現在		
名前	所属	任期
永倉瑞恵	一般社団法人JMA	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)
坂本恭一	滝川 株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)
橋本尚樹	株式会社クラフト・ワークス	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)
田村知之	大阪佐々木化学株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)
中村 竜二	ECCアーティスト美容専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)
辻浦 誠司	ECCアーティスト美容専門学校 副学校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)
種別		
		①
		③
		③
		③
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員		
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年間2回 9月、2月を基本とする。 (開催日時) 第1回 平成29年10月2日 16:00～17:30 第2回 平成30年3月12日 16:00～17:30		
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善や今後の検討課題等を具体的に明記。 教育課程編成委員会において①これまでの委員会での意見に対する改善策、②国際化に関して、③コースラインナップとカリキュラムに関して等の議論を実施、さらに意見が出された。メイク技術のみでなくJMA検定の合格率向上の対策を検討、カリキュラムに組み込んでの対応を図る。その他多数の問題点を解決するに当たって以下の取組みを予定している。メイク分野・美容部員業界での公衆衛生面、現場で活用できる技術習得を可能にするために、「ベーシックメイクアップ」の科目でJMA協会の規定に沿った展開を強化する。また、より実践的な技術習得を目指し資生堂プロフェッショナル社と提携し即戦力となって活躍できるカリキュラムを目指す。また、メイクがもたらす心理的影響を学習するセラピーメイクの科目についても企業提携し、より実践的な対応を試みる。さらに国際化に関してもメイク専門技術に関する英会話テキストを添削し改善を図る。		
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 専攻分野であるメイク/化粧品業界を中心とした企業・協会等と連携し、現場を想定した技術習得ができる実習・演習の設定に繋げる。特に①公衆衛生面の知識・技術の習得、②現場で活用できる専門技術の習得、③現場でのワーク、インターンシップ等による現場を想定した技術の習得を図る。 (2)実習・演習等における企業等との連携内容 ヘアメイクの技術習得に当たり、JMAのガイドラインに基づきその技術を習得する。また、資生堂プロフェッショナル社の現場に基づいた実践力を組み込む。 ヘアメイクの基礎技術を習得するに当たり、JMA協会のガイドラインに沿ってカリキュラムを設定、授業内容/教材/評価方法を協議の上3月末までにシラバス作成する。インストラクター資格保有者により協会のテキストを使用して授業を実施、試験評価する。また、メイクアップ技術検定3級を受検する。 接客を交えたメイク技法やアンチエイジングメイク技術習得に当たり、資生堂プロフェッショナル株式会社と事前に協議しカリキュラムを設定、授業内容/教材/評価方法を調整の上3月末までにシラバス作成する。資生堂プロフェッショナル株式会社から派遣の講師により授業実施、評価を行う。 また、メイクがもたらす心理的影響を学習するセラピーメイクの科目についてパーソナルメイク協会と提携し実践的な対応を試みる。事前協議の上カリキュラムを設定、授業内容/教材/評価方法を調整して3月末までにシラバス作成する。同協会から派遣の講師により授業実施、評価を行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
セラピーメイクアップ	メイクがもたらす心理的効果を学習し、修正メイク技法を習得します。	パーソナルメイク協会
メイクアップカウンセリング	接客を交えたメイク技法やアンチエイジングメイク技法を習得します。	資生堂プロフェッショナル株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教務規約第35条に従って、教育の一層の充実を図るため、企業、団体等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修等や指導力の修得・向上のための研修等を実施する。 研修企画部門を組織して指導力の修得・向上のための研修等の年間計画を年度初めに計画し、教育進捗状況に合わせて内容・時期を調整しながら設定する。また、専攻分野における実務研修はJMA技術研修への教員研修参加を定例化し、それに加えて必要な研修を確認し設定する。	
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 2017.8.2 JMA技術研修(メイク技術に関する研修。専任、兼任教員。講師：JMA認定講師。) 2018.3.21 JMA技術研修(メイク技術に関する研修。専任、兼任教員。講師：JMA認定講師。) ②指導力の修得・向上のための研修等 2017.12.20「学生心理アンケートハイパーQUを活用した学生分析」 学生アンケートの解析方法習得とクラス運営への展開(対象：対象：専任教員、教務スタッフ。連携企業：株式会社図書文化社)	
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 2018.8.27JMA技術研修(メイク技術に関する研修。専任、兼任教員。講師：JMA認定講師。) 2019.3 JMA技術研修(メイク技術に関する研修。専任、兼任教員。講師：JMA認定講師。) ②指導力の修得・向上のための研修等 2018.11「実践行動学」 ポジティブシンキングのクラス運営への活用(対象：専任、兼任教員。提携団体：実践行動学研究所) 2018.11「指導力向上の手法」 クラス運営における指導力向上(対象：専任、兼任教員。外部講師予定)	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針 本校では「学校評価実施規定」に則り、平成29年10月2日、平成30年3月12日に学校関係者評価委員会を開催した。平成30年度は9月13日に開催し、平成29年度の自己評価報告書をもとに関係者の意見・評価を別途「学校関係者評価報告書」に取りまとめて学園ホームページ上に公開している。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
	学校が設定する評価項目
ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>学校における職業教育の特色は何か</li> <li>社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職率の向上が図られているか</li> <li>資格取得率の向上が図られているか</li> <li>退学率の低減が図られているか</li> <li>卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>保護者と適切に連携しているか</li> <li>卒業生への支援体制はあるか</li> <li>社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>中長期的に学校の財務基礎は安定しているといえるか</li> <li>予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>自己評価結果を公開しているか</li> </ul>

(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において出された①最新技術の導入、②インターンシップ強化、③雑用・挨拶等ができる現場対応力育成、④コンテスト・検定実績の向上等の課題を中心にその対応を実施、検討中。

①、②に関しては、カリキュラムに連動して企業提携を進めながら対応中。

③に関してはインターンシップ、サロンワーク実習を通じて対応強化。

④に関しては通常授業のカリキュラムに加えて短期集中授業、特別対策授業等の実施を強化中。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
永倉瑞恵	一般社団法人JMA	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	分野協会
坂本恭一	滝川株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	分野企業
橋本尚樹	株式会社クラフト・ワークス	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	分野企業
貴治康夫	立命館高等学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	高校等関係者
猿木唯資	済美福祉センター連合運営委員会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	地域関係者
高野圭梨	卒業生	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ) 平成29年11月10日、平成30年3月31日

URL: <http://art.ecc.ac.jp/>

5 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。

連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時数) ・進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・終了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業生数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3) 教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み状況 ・実習・実技等の取り組み状況 ・就職支援等への取り組み支援 ・企業・施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの改善
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況、課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6) 学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(金額、納入時期) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8) 学校の財務	・貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	・留学生の受入れ・派遣状況 ・外国の学校等との交流状況
(11) その他	・学則 ・学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://art.ecc.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(文化教養専門課程アーティスト学科ビューティアドバイザーコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			皮膚／コスメティック知識	皮膚知識・紫外線・肌トラブル等と肌のメカニズムと化粧品の種類を学習します。	1前	15	2	○			○			○	
○			カウンセリングテクニック	ビューティアドバイザーとしての仕事内容と役割、求められる接客力・カウンセリング力・アドバイザー力を高めます。	1後	15	2	○			○			○	
○			ベーシックメイクアップ	クレンジングからフルメイクまで、メイクアップの基礎を習得します。	1前	60	8		○		○		○		
○			イメージメイクアップ	イメージメイク・年代別メイクの基礎を習得します。	1後	45	6		○		○			○	
○			メイクアップテクニック (BA)	JMAメイクアップ検定2級取得を目指し学習します。	1後	30	4		○		○			○	
○			カスタマーサービススキルズ I (BA)	綺麗な立ち居振る舞い・社会人としての話し方・接客用語を習得します。	1前	15	2		○		○		○	○	
○			カスタマーサービススキルズ II (BA)	おもてなしの「種類」「程度」「方法」などを適切に選ぶ時に必要不可欠な「人間関係の構築」「感情の変化」「行動の選択」などの原理、原則について解説し、おもてなしを断片的な知識でなく、本質的に理解させる。	1後	15	2	○			○		○	○	
○			エステティックベーシックメソッド	日本エステティック協会認定フェイシャルエステティシャン資格取得を目指し、エステティックの基礎理論を学習します。	1前	15	2	○			○			○	
○			フェイシャルエステティック／アロマセラピー	日本エステティック協会認定フェイシャルエステティシャン資格取得を目指します。・アロマセラピー(フレグランス)の香りの歴史、植物のエッセンシャルオイルの基礎知識や効果について学習し、ビューティアドバイザーとして求められる技術力を習得します。	1後	30	4	○			○			○	
○			ビューティヘアテクニック I	ビューティアドバイザーとしてふさわしいヘアアレンジスタイル・夜会巻を習得します。	1前	30	4		○		○			○	

○		Customer Service English I (BA)	コスメカウンターで必要とされる接客英会話をさまざまな場面設定でのロールプレイング練習において習得し、外国人のお客様に対する接客能力を高めます。	1前	15	2		○	○	○									
○		Customer Service English II (BA)	コスメカウンターで必要とされる接客英会話をさまざまな場面設定でのロールプレイング練習において習得し、外国人のお客様に対する接客能力を高めます。	1後	15	2		○	○	○									
○		カラーコーディネート(BA)	「色の三属性」「配色」「トーン」等、実習を通して色彩の基礎を習得します。	1前	15	2	○		○	○									
○		パーソナルカラー(BA)	その人に調和する色のコーディネートを習得します。	1後	15	2	○		○	○									
○		プレゼンテーション スキルズ I	「声」というコミュニケーション手段を体得させるための発音発声練習・ヴォイストレーニング・プレゼンテーションの原稿作成を繰り返し練習し、さらにそれらすべての要素を盛り込み、自己表現や商品、サービスの説明、提案の実践演習を行います。	1前	15	2		○	○	○									
○		業界研究 I (BA)	化粧品業界の概況、企業特性等について自ら調べる方法を学び、十分な業界研究を経て希望する企業選択やキャリアプランニングを行います。	1前	15	2	○		○	○									
○		業界研究 II (BA)	自分をアピールする方法や履歴書の書き方の基本を学習し、希望する職業に就けるよう具体的に準備を行っていきます。	1後	15	2	○		○	○									
○		筆記試験対策 I (BA)	就職活動で課される筆記試験対策の授業です	1前	15	2	○		○	○									
○		筆記試験対策 II (BA)	就職活動で課される筆記試験対策の授業です。	1後	15	2	○		○	○									
○		就職対策 I (BA)	自分をアピールする方法や履歴書の書き方の基本を学習し、希望する職業に就けるよう具体的に行動のデザインを行っていきます。	1後	15	2	○		○	○									
○		コミュニケーション I	自己理解を深め、自己も他者も大切にするためのコミュニケーション力を高めます。	1前	15	2	○		○	○									
○		コミュニケーション II	自己理解を深め、自己も他者も大切にするためのコミュニケーション力を高めます。	1後	15	2	○		○	○									
○		SIC[1]	夏季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	1前	30	4	○		○	○	○								
○		SPIC[1]	春季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	1後	30	4	○		○	○	○								

○		スキン ケア	皮膚／コスメ基礎知識で習得した皮膚の基礎知識に加え、更に肌のメカニズムや化粧品 の成分・品質などを学習します。	2 前	15	2	○		○		○	
○		コスメティックス セールス スキルズⅠ	コスメ販売の基本ノウハウをケーススタディ により学習します。	2 前	60	8	○		○		○	
○		コスメティックス セールス スキルズⅡ	ケーススタディーに基づき実践的な販売方法を 習得します。	2 後	45	6	○		○		○	○
○		メイクアップ カウンセリング	接客を交えたメイク技法やアンチエイジング メイク技法を習得します。	2 前	45	6		○	○		○	○
○		ビューティメイ クアップ	ECCコレクションの対策授業を通してヘアメイ クの応用技術を学ぶ。また、メイクアイテムの 販売方法を学ぶ。	2 後	45	6		○	○		○	
○		セラピーメイ クアップ	メイクがもたらす心理的効果を学習し、修正 メイク技法を習得します。	2 前	45	6		○	○		○	○
○		コスメティックス マーケティング	化粧品業界の構造やマーケティング戦略の 立案～実施までの仕組み、店頭BAがマーケ ティングに果たす役割を知る。「ブランド・自分 のファンを作ること＝安定した売上の確立」 に必要な「マーケット脳」を身につけること で長期的なキャリアプランを組み立てられる ようになる。	2 後	15	2	○		○		○	
○		ビューティヘ アテクニック Ⅱ	ヘアアレンジテクニックの基礎を活かし、女性 らしさを引き出すヘアスタイルを習得します。	2 後	15	2		○	○		○	
○		ビューティボ ディーケア	ヨガで体幹・柔軟性UPを目指したり、自分自 身を内観することで心を安定させたりして、 BAとして必要な心身のセルフコントロール力 を学びます。ビューティケアで自分の身体を 見直しセルフケアが出来るよう学びます。	2 後	15	2		○	○		○	
○		ネイル ケア &カラー(BA)	ネイルの基礎知識・基本的なネイルケア、カ ラーリング技術を習得します。	2 後	15	2		○	○		○	
○		プレゼンテー ション スキル ズⅡ	自己分析のワークを行うことにより、自己自 身の「過去」を紐解き、「現在」を凝視します。 それにより、自己像を自分で把握し、自己表 現する内容を確立します。また、自己表現す る内容を、勤め先の現場に活かせるよう 「考え方」を見つける。その「考え方」に基づ いて、学生としてではなく社会人として、様々 な事柄に対する自分の「意見」を持つ。また その意見を、他者に理解されるように言語で	2 前	15	2	○		○		○	
○		プレゼンテー ション スキル ズⅢ		2 後	15	2	○		○		○	
○		エキストラ ス キルズ	描写の基本を学習し、顔を立体的に捕らえ、 陰影のつけ方を習得します。・美容栄養学の 基礎知識や肌効果について学習します。	2 後	15	2		○	○		○	

○		Customer Service English III (BA)	コスメカウンターで必要とされる接客英会話をさまざまな場面設定でのロールプレイング練習において習得し、外国人のお客様に対する接客能力を高めます。	2前	15	2	○			○									
○		Customer Service English IV (BA)	コスメカウンターで必要とされる接客英会話をさまざまな場面設定でのロールプレイング練習において習得し、外国人のお客様に対する接客能力を高めます。	2後	15	2	○			○									
○		就職対策Ⅱ (BA)	多様化する面接試験内容に対応し、面接時の応答力やアピール力を習得し就職試験の突破を目指します。	2前	15	2	○			○									
○		就職対策Ⅲ (BA)	個別活動を中心に就職内定を目指します。	2後	15	2	○			○									
○		コミュニケーションⅢ	社会生活において他者と円滑に意思の疎通が行える力を様々なワーク、取り組みを通して高めます。	2前	15	2	○			○									
○		コミュニケーションⅣ	社会生活において他者と円滑に意思の疎通が行える力を様々なワーク、取り組みを通して高めます。	2後	15	2	○			○									
○		SIC[2]	夏季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	2前	30	4	○			○									
合計				44科目				3000単位時間(200単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①卒業要件：各学年58単位（卒業年次は54単位）を修得しているものに対して、学年末に進級・卒業判定会議を開催し、学校長が進級・卒業を認定する。 ②履修方法：選択必須科目については、専攻等により事前に選択する。必須科目については自動的に登録される。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。